

生成AIがアプリを作る時代、 エンジニアに大事な価値って何だろう

2025/06/13

生成AI時代に考える
エンジニアのキャリア会議

2025.06.13 (金) 19:00-21:30

株式会社スマレジ 大阪分室

懇親会あり

軽食あり



自己紹介



Yuta

Edit profile

趣味でエンジニアやっています。web系、組み込み系、スマホアプリの三刀流です。エンジニアの他に爬虫類飼育とボルダリングも趣味です
[instagram.com/yuta_reptilefriends](https://www.instagram.com/yuta_reptilefriends)



仕事

本職: 製造業のサステナビリティ部門(非エンジニア職でDX推進)

副業: 松尾研発スタートアップ®企業でAI系エンジニア職

最近の活動

- Zennの記事が110本超えました
- 婚活再開中



本業における立ち位置

- 基幹システムが既に存在している会社
- 業務を改善・効率化するためのアプリケーション、システム
- 個人でGAS+Reactで開発することが多いが、情シス部と開発することもある



生成AIとITの民主化

10年前

- システムやアプリの開発は情シス部やプログラマの専売

5年前

- 「市民開発」という言葉が出てきた
- ノーコードを使った限定的なアプリケーション開発

ここ数年

- AIを使えばアプリケーションを簡単に作れる

IT部門に問われる役割

- ITソリューションを提供する者にとって、市民開発されている状況は好ましくない



「デザインの敗北」

ユーザーにとってわかりにくい、危険
デザイナーへの揶揄、戒めとして言われる

- 非IT部門やノンプログラマーが自分たちでアプリを作れる現代、IT部門やエンジニアが存在価値を持つには？

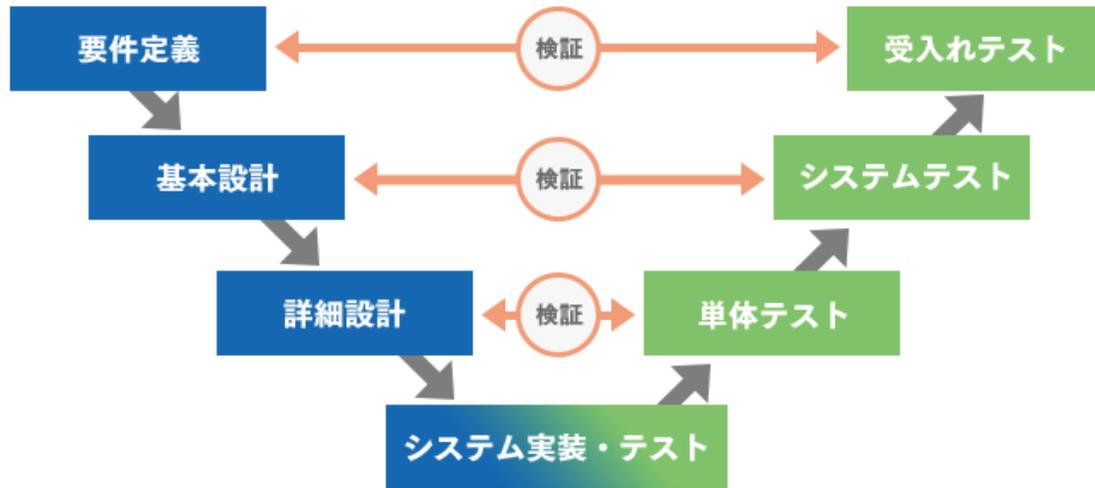
エンジニアに重視される能力

- 手を動かせる人から、問題を定義、解決できる人へ
- 的確に問題を捉えるためには・・・
 - ① コミュニケーション力
 - ② 洞察力

一般論すぎるので、ここから私の経験談

ウォーターフォールモデルと エクセル要件定義表は コミュニケーション・洞察力と相性悪い

ウォーターフォールモデルとは



工程ごとにレビュー（成果物の確認）を行うのが特徴

1. 収受・到達：到達した文書の受領、および収受手続を行う。

NO.	機能項目	機能仕様	区分	重要度	説明要否	デモ対象	備考
1	収受情報管理	収受日はシステム日付が自動的に入力されること。ただし、手入力での修正が可能で、収受日を過ぎた日付にも変更ができること。	必須	-	-		
2		収受文書の発信元情報（発信元文書の日付、文書番号、所属、文書媒体-電子-紙）を登録できること。	必須	-	-		
3		収受担当所属・職員名は、ログイン時の認証情報より自動で発行者の情報が初期表示されること。	必須	-	-		
4		収受登録時に、文書ごとに保存先簿冊を指定できること。簿冊を指定する際は、分類の簡易表示等から簡易的に選択できること。	必須	-	説明要	○	以降の同様の機能については説明必須ではない
5		上記No.4の要件に加え、簿冊を指定する際は、簿冊情報（簿冊名、年度、保存期間など）で検索して選択できること。この時、保存元の検索画面では、各簿冊の簿冊情報や、簿冊内文書の情報を閲覧しながら判断ができること。	任意	中	説明要		以降の同様の機能については説明必須ではない
6		収受文書の保存期間、実行区分、重要公文書区分、編さん区分は、選択した簿冊の情報が自動的に反映又は給付されること。	必須	-	-		
7		収受文書の詳細情報を公開する範囲を「全庁」「局内」「部内」「課内」「係内」からプルダウンにて設定できること。	必須	-	説明要	○	以降の同様の機能については説明必須ではない
8		上記No.7の要件に加え、「特定者（当該文書の配業者及び決裁・承認者として設定した職員など）」も設定できること。	任意	高	説明要	○	以降の同様の機能については説明必須ではない

ウォーターフォールモデルは、 なぜコミュニケーションと相性が悪いのか

言質をとる開発スタイルになりがち

要件定義書のエクセルを埋めることが最優先される

現場の人も、よくわからないままYesと答える

手戻りを極度に恐れるゆえ、一度取られた言質は戻せない

エクセル要件定義表は、なぜ洞察力と相性が悪いのか

問題を構造的に分解しづらい

総論と各論がごちゃまぜになり、本質を見失いがち

列ではロジカルに分解しにくい

事象を単語や記号にしてしまいがち。文でない伝わらない

ドキュメントを推奨している

大項目

各項目

- 事象1

- 事象2

エクセル方眼紙が蔓延っていた製造部内でも

徐々にマークダウンで書くことが浸透してきている

私が心がけている
コミュニケーション

① 現場の人と対話する

聞くべき相手は「現場で作業している人」

心理的安全性を持った対話

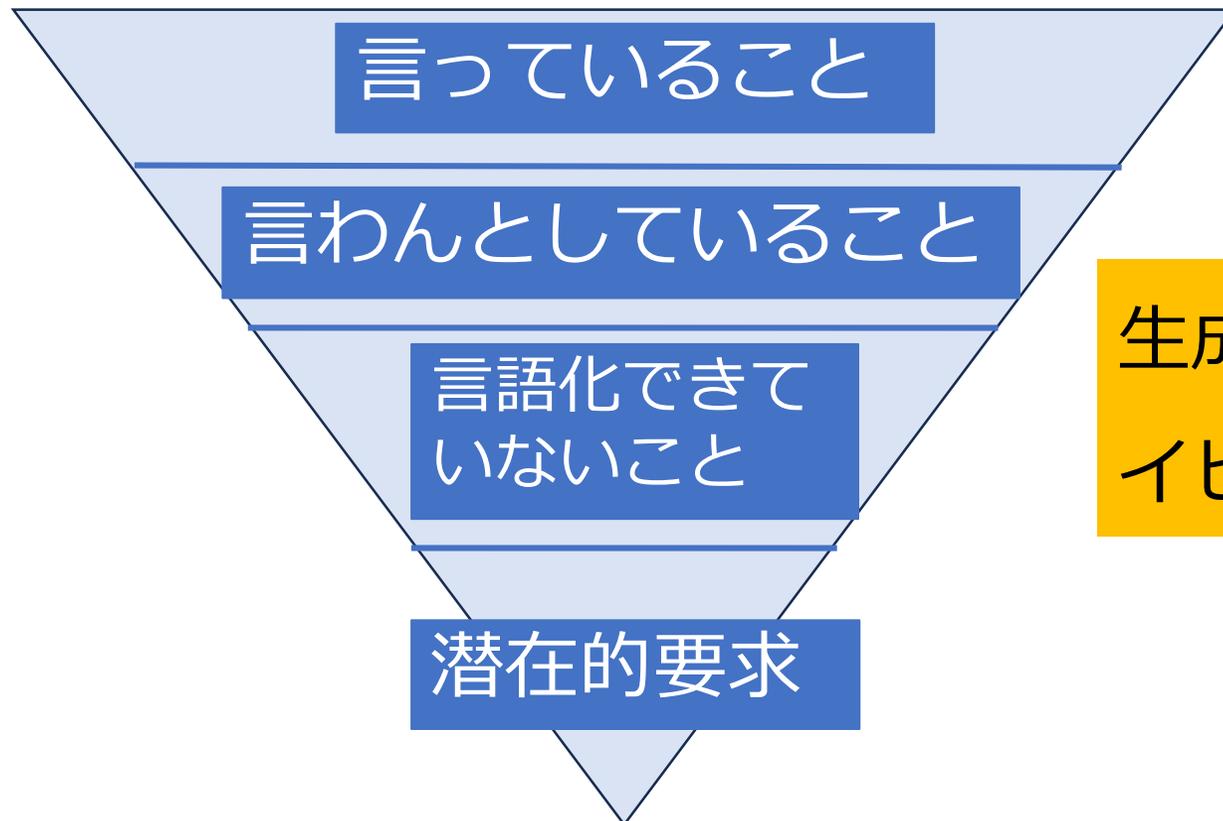
- なんでこんな作業やらされてるかわからない
- こうやったらいいのに～

- 現状を把握したいです
- 誰かを責めるつもりはありません
- 何かを押し付けるのではなく、皆が楽できることを目指しています



② プロトタイプで要求を深掘り、改善を素早く進める

要件定義表に書いてくださいで、本当の問題に辿り着きにくい
プロトタイプを使って、潜在的な要求に迫るコミュニケーション



生成AIを活用し、迅速なプロトタイプ
イピング&フィードバックを実現

③ 信頼を構築したほうがお互い楽

インフラ、デザインの的に完璧なシステムなんて存在しない

1点のミスを許してもらえない関係性で99点のシステムを作るよりも
80点で満足してもらえる関係性を作って90点のシステムを作る

安定稼働、高速稼働が必ずしも顧客満足につながるわけではない

真摯に取り組んでくれていると信頼されることが顧客満足につながる

まとめ

アプリケーションを作る作業は今後いっそうAIに取って代わられる
(要件定義書を作る作業も、AIができるようになる)

要件定義書を作って、ウォーターフォールで開発して、、、が
いつまで通用するのか

本音を聞き出す力、ネット上にない知見を収集する力
コミュニケーション力と洞察力こそ、エンジニアのキャリア形成に
必要な能力と考えます